

梅谷 聡子 嘱託講師

研 究 業 績

2023年4月1日現在

著書・論文等 [SEP]の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、[SEP] 共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発 表[SEP] 年 月
著書(共)	「児童養護施設における自立支援-レジリエンス理論に着目して-」『子どもの貧困/不利/困難を考えるⅢ-施策に向けた総合的アプローチ』埋橋孝文、矢野裕俊、田中聡子、三宅洋一編著、ミネルヴァ書房、174-188頁	2019・6
論文(単)	「児童養護施設で育つ子どもへの自立支援の課題-ソーシャルワークにおけるレジリエンス概念を手がかりに-」同志社大学博士学位論文	2022・9
	「社会的養護の子どもの回復を促すソーシャルワークに関する一考察-レジリエンスの文献レビューを通して-」『社会的養護研究』2、65-73頁	2022・6
	「子どもの自立を促す児童養護施設のインケアに関する考察-アフターケア相談員へのインタビュー調査から-」『評論・社会科学』131、95-121頁	2019・12
	「児童養護施設職員の子どもの共感が援助観の形成に与える影響に関する考察-職員のライフストーリーに着目して-」『評論・社会科学』130、1-21頁	2019・9
	「児童養護施設における子どもの貧困と自立支援-職員へのインタビュー調査に基づいて-」『国際経済労働研究 Int' le cowk』73、32-42頁	2018・3
その他(単)	「社会的養護の現在とこれから」『福祉研究』116、97-99頁	2023・3
	「新型コロナウイルス感染拡大下の社会的養護の役割」『同志社大学大学院社会福祉学論集』35、31-36頁	2021・3
	「児童養護施設における子どもの自立の構成要素に基づく自立支援モデルの構築-インケアの役割に着目して」『豊かな高齢社会の探求調査研究報告書』27、1-19頁	2019・7
	「<書評> Laura Gilliam, Eva Gulløv, Karen Fog Olwig, Dil Bach, <i>Children of the Welfare State: Civilising Practices in Schools, Childcare and Families</i> , Pluto Press」『同志社大学大学院社会福祉学論』33、27-30頁	2019・3
	「<書評> 種橋征子著『介護現場における「ケア」とは何か-介護職員と利用者の相互作用における成長』」『同志社大学社会福祉教育・研究支援センターニュースレター』26、21-22頁	2018・1
	「私の児童養護施設職員としての実践を振り返って」『同志社社会福祉学』29、98-104頁	2015・12
その他(共)	「子どもの貧困」浦田雅夫編著『新・子ども家庭福祉-私たちは子どもに何ができるか』教育情報出版、72-75頁	2020・11
口頭発表 (単)	「児童養護施設退所者のライフストーリーにみる自立を促す要因-インケアにおける自立支援の構築のために-」日本社会福祉学会第67回秋季大会	2019・9

	「デンマークのソーシャルパタゴジーに関する研究」第20回日本子ども家庭福祉学会全国大会	2019・6
	「英国の社会的養護におけるリービングケアシステムの展開-日本への示唆-」同志社大学社会福祉学会第33回大会	2018・12
	「児童養護施設における子どもの自立を促すインケアの課題-アフターケアワーカーへのインタビュー調査に基づいて-」第19回日本子ども家庭福祉学会全国大会	2018・6
	「児童養護施設職員による子どもの自立観の形成に関する研究-インケアを担う職員へのインタビュー調査より-」日本社会福祉学会第65回秋季大会	2017・10